

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈2月1日（金）放送分〉

テーマ：「奄美図書館2月行事及び事業の案内」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。

2月になりましたが、寒さが厳しい朝は、まだまだ布団のぬくもりから抜け出すのがつらい時期です。

さて、今日は、世界遺産について少し話をしてみたいと思います。

世界遺産とは、1972年（昭和47年）に採択された「世界遺産条約」に基づいて、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の「世界遺産リスト」に登録された遺産のことで、国家や民族を超えて人類が共有し、次世代に受け継いでいくべき価値をもつ遺産を対象としています。

世界遺産には、歴史的に価値のある「記念物、建造物、遺跡」などの分野に属する文化遺産、「生物、地質・地形、自然」などの分野に属する自然遺産、そして、文化遺産と自然遺産の両方の長を兼ね備えた複合遺産の3種類があります。2012年7月現在の世界遺産の登録数は、文化遺産が745件、自然遺産が188件、複合遺産が29件の合計962件となっています。

それでは、日本の世界遺産の登録数は？。日本は現在16件で、その内訳は、文化遺産が12件、登録順に、「法隆寺地域の仏教建造物」、「姫路城」、「古都京都の文化財」、「^{しらかわごう}白川郷・^{ごかやま}五箇山の合掌造り集落」、「原爆ドーム」、「^{いつくしま}厳島神社」、「古都奈良の文化財」、「日光の社寺」、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」、「紀伊山地の霊場と参詣道^{さんけいどう}」、「石見銀山遺跡とその文化的景観」、「^{ひらいずみ}平泉〜^{ぶつこくど}仏国土を表す建築・庭園及び関連の考古学的遺跡群〜」となっており、また、自然遺産には、「屋久島」、「白神山地」、「^{しれとこ}知床」、「小笠原諸島」の4件が登録されています。

この他に、群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」や「富士山」などを世界文化遺産に推薦中で、推薦待ちの候補には、福岡や鹿児島、山口が登録を目指す「九州・山口の近代化産業遺産群」があります。

「九州・山口の近代化産業遺産群」とは、我が国の近代化が幕末における西洋技術の導入以来、西洋地域以外で初めて、かつ極めて短期間のうちに飛躍的な発展を遂げたという点において、世界史的にも特筆されるべきものであり、その大きな原動力となった

のが、アジア大陸に近いという地理的特性があり、古くから日本と海外を結ぶ窓口として発展してきた九州・山口でした。

九州・山口を中心とする近代化産業遺産群は、建物、機械、工房、工場及び製造所など産業施設そのものだけでなく、輸送施設、住宅、宗教礼拝、教育など産業に関わる社会活動のために使用されるいろいろな場所も含まれており、近代化の先駆けをなした経済大国日本の原点を訪ね、語り継いでいく上で、極めて重要な文化遺産群となります。

奄美図書館では、このような九州・山口の近代化産業遺産を広く知っていただくため、NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会主催のパネル展「九州・山口の近代化産業遺産群を世界遺産へ」が、3階奄美^{あま}ギャラリーで開催されます。鹿児島市にある「尚古集^{しょうこしゅうせいかん}成館」や「異人館」をはじめ、九州各地に点在する産業遺産をパネルで紹介します。展示期間は、2月2日から2月17日、日曜日までです。

また、このパネル展に合わせて、記念講演会も開催されます。講師は、日本近世・近代史を専門とし、特に奄美・沖縄、東南アジア諸地域とのつながりの中での南九州と薩摩藩の歴史研究に取り組む、鹿児島県立図書館長、志學館大学教授の原口^{はらぐち} 泉^{いずみ}先生で、演題は「奄美の近代化と製糖が支えた薩摩藩」です。開催日時は、(明日)2月2日、土曜日の午後1時30分から午後3時までで、会場は、奄美図書館4階研修室です。

県立奄美図書館のホームページでも詳しくご案内していますのでご覧ください。

「九州・山口の近代化産業遺産群」のパネル展及び講演会へたくさんの方にご来場いただき、世界自然遺産登録に向けた動きが本格化しつつある「奄美・琉球諸島」においても、今後の取組への気運の高まりにつながることを期待しています。

県立奄美図書館でした。来週もまたこの時間にお会いしましょう。